

ウチナー 混声合唱組曲「沖縄の雲へ」を 作曲者池辺晋一郎さんの指揮で歌いませんか

2008年9月15日全国自治体のうたごえ祭典 於神戸(神戸新聞松方記念ホール)

作曲家の池辺晋一郎さんは、現代日本を代表する作曲家の一人です。映画「影武者」、「バルトの楽園」やTVドラマ「元禄繚乱」などの音楽のほか、交響曲No.1〜7、オペラ「死神」など多数の作品で知られ、NHK教育TV「N響アワー」にレギュラー司会者として出演されています。



池辺晋一郎氏

現代日本を代表する作曲家の一人。東京音大教授。全日本合唱連盟顧問。主な作品に交響曲No.1〜7、オペラ「死神」などの他に、映画「影武者」や「バルトの楽園」やTVドラマ「元禄繚乱」などの音楽を担当。NHK教育TV「N響アワー」にレギュラー出演。

教育者として知られる丸木政臣さんと和光学園園長が、太平洋戦争末期に学徒兵として経験した沖縄での悲惨な戦況を、短歌にして歌集「沖縄」を執筆されました。そのなかの三首に池辺晋一郎さんが作曲したのが混声合唱組曲「沖縄ウチナーの雲へ」です。戦争の悲惨さ、非人間性を強く訴え、平和を誓う曲となっています。2002年12月、神戸市役所センター合唱団により初演されました。

レッスン

毎月(8月まで)第二、四水曜日 午後7時から9時
大阪の自治体職員合唱サークルの合同レッスンです。

練習指揮 守屋博之さん(関西合唱団常任指揮者)

レッスン場所 大阪グリーン会館
(大阪市北区天神橋一丁目)

●8月31日午後3時30分〜6時
(神戸にて池辺さん指揮で練習)

参加費 レッソンは無料です。
別に楽譜代(1200円)が必要です。
※レッスン参加、あるいは見学されたい方は必ず事前に連絡ください。

連絡先 環境農林水産総合研究所 山本勝彦
●090-1718-1633(勤務時間外にお願いします)



温泉、散策でリフレッシュ



4月19日(土)、「いよやの郷」(岸和田市・牛滝「バーベキュー」)大交流会(主催:大阪自治労連医療部会)に府立病院労組からもバスをチャーターして参加しました。全体参加者は100名を超え、府立病院労組では全支部から新採旧採、子どもを含め約50名の参加がありました。

新採歓迎バーベキュー大交流会

バスは8時30分に天王寺駅を出発、急性期総合医療センター、呼吸器・アレルギー医療センター、母子センターを経由し、目的地に到着するまでの3時間余り、車中では、職場紹介、自己紹介などで盛り上がりま

交流会では冒頭「戴下将人さんのミニコンサート」があり、その歌声に酔いれました。バーベキューでお腹がいっぱいになった後は、各病院の代表が、それぞれ職場の状況や組合の取り組み等を報告し、交流を深めました。最後の大抽選会で、府立病院労組の新採さんら2等、3等に当選するうれしおまけもありました。大交流会終了後は、温泉に入り疲れを癒す人、川沿いを買収する人、みやげを買収する人、思い思いに過ごし、帰りのバスでは感想を話したりしながら、無事帰途につきました。日頃の激務や緊張感も忘れ、楽しく過ごした一日でした。

みんなおいでよ!
「府職労学校」

日程 6月21日(土) 13:30から
6月22日(日) 12:00まで

会場: トーコーシティホテル梅田

学習の内容は...
労働組合の基礎知識
府職労のしくみと役割
府職労運動の歴史と動向
などを検討中

申込は分会役員又は府職労本部まで

大阪での合同レッスンは、掲載のとおり開催されます。憲法九条改善や、自衛隊恒久派遣など、平和を脅かす動きがあるなかで、平和のうたを広めるためにも、ステージに一緒に立つ人を募集しています。

児童福祉の現状 24

健康福祉支部相談所分会書記長 神夏磯 保

「何かあったとき職場は守ってくれる、支えてくれる」という空気がある職場とない職場とでは、メンタル面では「月とスッポン」です。ただ、職員間の支え合いだけでは限界という危機的な状況になっていることも事実です。児童虐待防止法

新採職員15名が4月1日に各子ども家庭センターに配属されました。アンケートではその多くが児童福祉相談部門の職場で働きたいという願望を持っており、念願叶ったこともあって、表情は活き活きしているのが印象的です。しかし、大学等で学んだことと実践とは大きな乖離があり、ストレスフルな渦の中に早々に入り込んで、活きた表情も見えなくなる変化していくことが心配されますが、その責任の一端は職場にあるという自覚を、先輩は自覚しておくことも重要と思えます。

- 1: 一人でケースの全責任を持たなければならないという意識にならない(ケース対応は組織対応という認識に立つ)。
- 1: 周囲の動きを見て自分と比較しない。動きに差があっても当然。わからなければ聞く。親切に教えないければその人の人間性を疑うこと。
- 1: 仕事場と家庭等のプライベートとの切替を早めること。
- 1: 仕事だけに埋没せず、何か趣味を持ち、多面的な人生によって気分転換をスムーズにできるようにする。それが仕事にも好結果を生み出す。
- 1: いい意味での開き直りの精神が大事。自分一人の力で地球は回っていない。
- 1: 地獄は一生続かない。

の改正が、4月1日から施行されています。立ち入り調査を実施した時、鍵を閉けない家では子どもが登校後、家庭内では子どもが怪我をして現認するという内容も盛り込まれています。誰がするかと言えば、子ども家庭センターの職員がするのです。警察官でもない我々が、こういう行為や職権保護を実施していくことや、24時間いつでも対応する(24時間いつでも出動)ということなど、はつきり言って犠牲が一般家庭で化された子どもが家庭センターで、うつ等メンタル面の病欠者が毎年発生するのも構造的な問題です。昨年度も、6名の病欠者がいた。病欠寸前の潜在的な職員も入れれば、子ども家庭センターの最重要課題は職員のメンタルヘルス問題です。筆者自身も20年前に児童相談所に赴任した時、仕事内容についていけず「うつ」状態になった経験があります。恒常的な重圧感に悩ま

され、「死んだら楽やろな」ずっと寝ていた」と思いつくが、家庭内では子どもが登校後、家庭内では子どもが怪我をして現認するという内容も盛り込まれています。2年間間は地獄の思いでした。今は「神夏磯さんが、信じられない」と言われるほど元気いっぱいですが、この体験と心得をオープンにすることで、「しんどいのは、自分だけではない」という安堵感を持ってもらえるように、毎年この時期にニュースにも怒ります。今年も怒りましたが、20年前とは構造的にも違っており、構造を抜本的に変えないとメンタルヘルス問題の解決は望みません。二極集中化改善・人員体制の改善等。